

日本道路四国支店の新社屋完成

随所に四国産材のおもてなし

日本道路四国支店が高松市の現地で建て替えていた新社屋が完



建物外観

成した。設計と施工は清水建設が担当。働きやすさに配慮した環境づくりやBCP（事業継続計画）拠点機能確保するなどほかの支店の建て替えノウハウを踏襲しつ

清水建設が設計施工



澁谷氏



細田氏

つ、四国産材を生かしたおもてなし空間など独自性も持たせた。19日、現地で開いた竣工式典には関係者20人が参加。澁谷博志氏は「前作（他支店）の思想を受け継ぎ、新しい発想とわれわれの要望を取り入れながら、その年の特色も反映するなど常に進化を遂げているのが素晴らしい。ものづくりの会社として、大いに見習って

は関係者20人が参加。澁谷博志氏は「前作（他支店）の思想を受け継ぎ、新しい発想とわれわれの要望を取り入れながら、その年の特色も反映するなど常に進化を遂げているのが素晴らしい。ものづくりの会社として、大いに見習って

新社屋の規模は、RC造3階建て延べ822平方メートル。香東川の洪水などを想定し、事務室や会議室など主要居室は2階以上に配置した。愛媛の大洲和紙、香川のかがり手まり、高知の梶原町ヒノキ、徳島の阿波藍染めを随所に散りばめた。



建設通信新聞

2021年05月25日 010面 01版 No.06